

防火クラブ紹介



上三所女性防火クラブ(奥出雲町)
会長 石原 悦子

上三所女性防火クラブは奥出雲町布勢地区城山のふもと86戸からなる集落の防火クラブです。平成11年に家庭における実質の火気取扱い責任者である女性が火災予防の知識を習得し、火を使用する器具等を火災予防上安全に使用できるようにするとともに、消火器等初期消火用具の使い方、通報連絡、避難等の行動的知識をも習熟することにより、一般居住建物における火災を防止し、あわせて地域の隣保協力体制と連帯意識の高揚を図る事によって明るい平和な家庭づくり、安全な地域づくりを目的として立ち上がりました。

これまで防火座談会を中心に消防署よりご指導を受け、防火や地震対策ビデオ視聴、消火器訓練、起震車体験、救急法講習会、AED講習会等さまざまな活動を行いました。また、平成17年度より春・秋の火災予防週間には防火旗を立て防火意識が高まるよう努めています。そんな中、平成16年7月には雲南防火委員会会長表彰を受賞。

家庭を守り、安心安全な地域づくりの為に日頃から小さなことにも気をつけて、ちょっとした不注意から大きな災害へとつながらないことを念じながら啓発活動を続けてきました。

今後、急がれることとして住宅用火災警報器の設置があり、早急に全戸設置を目指して推進しているところです。

自然発火にご注意ください！！

塗料やワックスなどを拭き取ったタオルが自然発火したことにより火災が発生しました。
※(8月：雲南消防本部管内)

自然発火とは・・・

人が火をつけていないのに、自然に燃えだすことを自然発火といいます。例えば、揚げ物の油や揚げかす、塗料、インク、ワックスなどの油類は、酸化することで発熱し燃えだす可能性があります。この他にも、空気中で自然に燃え出すマッチの材料の黄リン、水の入ったペットボトルなどによる太陽光の集光、雷などが原因となることがあります。

どんな時に塗料が自然発火するのか・・・

塗料やワックスなどの油類は、酸化反応することで発熱します。その主な条件は「酸素」「温度」「密度」の3つです。油類は酸素に触れることで酸化し、酸化熱を発生しその熱エネルギーは、温度が高い状態でさらに増幅します。そして、密度が高ければ高いほど熱がこもり、発火につながるのです。

例えば、塗料やワックスを拭き取った布・油が染み込んだ紙などを山積みしたり、容器にまとめて入れたり、ビニール袋に入れたまま放置しておいた場合自然発火することがあります。



予防方法・・・

◎拭き取った布、塗料の付着したシートやダンボール、集めた塗料かすは、山積みしたり容器やビニール袋にまとめておかない。

◎それらの布などは、水を十分に入れた容器に沈めてフタをし、水が蒸発しないように注意する。



室温37℃、湿度68%の状況下でワックスを拭き取ったタオル3枚を重ねて放置したところ、約10時間後、表面温度約350℃まで上昇し自然発火した。

第62回 島根県消防大会

7月31日(土)「第62回島根県消防大会」が安来市民会館において開催され、下記の3団体が避難訓練や防火・救急法講習会など日頃の積極的な活動を認められ、島根県知事表彰を受賞されました。

- 【幼年消防クラブ】 三成保育所幼年消防クラブ(奥出雲町)
- 【少年消防クラブ】 海潮小学校少年消防クラブ(大東町)
- 【女性防火クラブ】 中山団地女性防火クラブ(加茂町)



県知事から表彰を受ける 海潮小学校少年消防クラブ



受賞されたみなさん

健闘 全国消防救助技術大会

8月27日(金) 京都府で開催された「第39回全国消防救助技術大会」に中国地区代表として、奥出雲消防署の伊豆大輔消防副士長と川端啓市消防士がロープ応用登はんの部に出場しました。

伊豆・川端組は日頃の訓練の成果を十分に発揮し、50チーム中13位という好成績を残しました。

今回の全国大会出場により、雲南消防の名を全国にとどろかせ、全職員の士気を高めることができました。なお一層の技術向上に努め「救助日本一」を目指し職員一丸となり努力して参ります。



写真左
伊豆大輔消防副士長

写真右
川端啓市消防士

